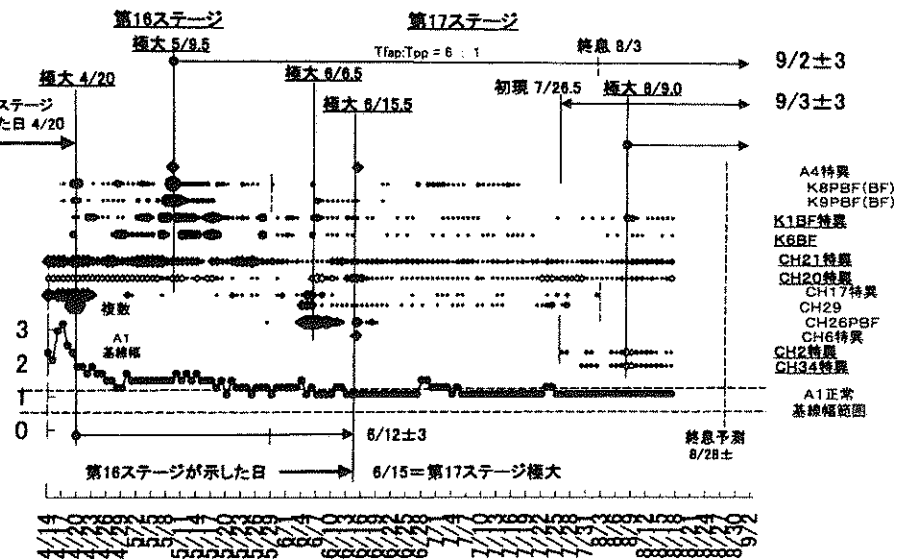


原稿校了後の前兆変化について

ハヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

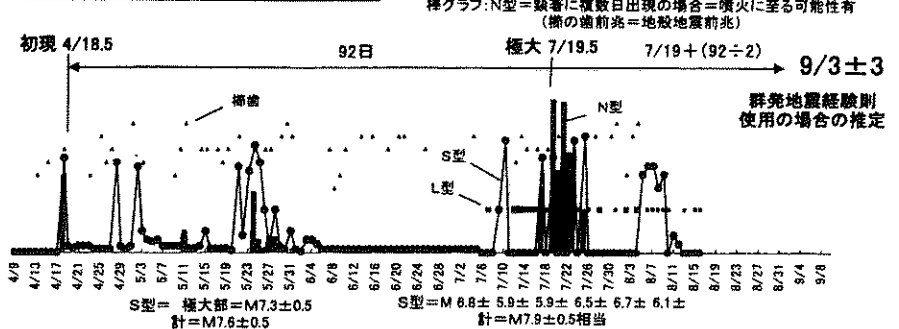
No.1778 長期継続特殊前兆 続報 新たな極大出現するも 9/3±を示す 現状 9/3±を否定する根拠変動無し

No.1778長期継続特殊前兆は、9/3±を示す前兆形態の可能性が示唆され、08月中旬に前兆終息が観測される可能性もありました。しかし、8/8~9/10にかけ、高知観測点のK1のBF特異が大きく観測され、7/26午後からハヶ岳のCH02に特異状態が出現し、7/30からはCH34にも特異が出現しました。様子を見ていましたが、CH2, 34共に8/8~9/10の変動が大きく、8/9.0に新たな極大出現と認識。
6/6.5及び6/15.5の極大に対する前兆終息は、この極大関連前兆があるために確認できません。またCH21等が終息していない理由はこれが原因の可能性。7/26初現~8/9.0極大で計算しますと、9/3±を示し、現在の9/3±発生の可能性を支持します。8/9.0極大に対する前兆終息は8/28±の可能性が計算できます。これが観測されるか注目されます。現状、現在の前兆で9/3±を示す認識を否定する根拠変動はありません。

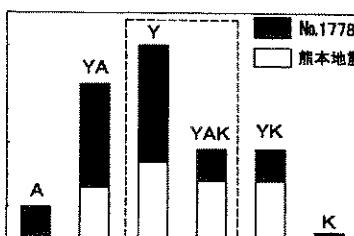
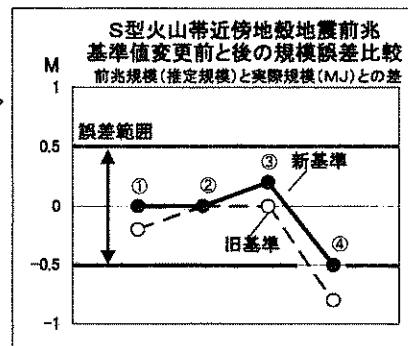


右はNo.1778前兆関連認識の火山帯近傍地殻地震前兆及び火山性前兆の出現状況。N型は顕著に複数日連続出現の場合は噴火の可能性のある前兆。S型は火山帯近傍での震源が極めて浅い地殻地震前兆。櫛歯前兆は地殻地震特有の前兆形態です。
今回は全ての火山性前兆が出現しています。S型は変動面積比から規模が推定できる経験があります。従来使用していた基準値を修正した検証結果を右下に示しました。特殊な地震認識でもある熊本地震でも、新たな基準値を使用して計算しますと±M0.5の誤差内に入ります。

火山帯近傍地殻地震・火山前兆



下方は熊本地震の際と今回観測されているNo.1778関連認識の櫛歯前兆の各観測点同期出現の組合せ割合を示しました。A=秋田観測点のみ YA=ハヶ岳と秋田同期 Y=ハヶ岳のみ YAK=秋田・ハヶ岳・高知同期。YK=ハヶ岳・高知同期 K=高 ①栃木北部 M5.1 知のみを表しま ②胆振樽前山M5.6 す。活動が大きい ③長野北部 M6.7 場合は全観測点に ④熊本地震 M7.3 前兆が出現します。
右図では右側が優位なほど南西領域を示し、左側が優位なほど北東領域を示します。白棒グラフの熊本地震前兆に比べ黒のNo.1778は、明らかに北東よりの領域を示しています。櫛歯ではなくS型ですが、北海道胆振地震では秋田観測点のみの出現でした。全体的には秋田観測点に優位に出現している様で、これらを参考にしますと、黒棒=No.1778関連は、中部日本領域の可能性が考え易い状況です。



下図：斜線域はNo.1778地震前兆から考え易い推定領域。左記の火山帯に近い(約70~80km圏内)領域の可能性を加味しますと、下推定が正しい場合は該当火山は白山の可能性有。上の火山帯近傍地殻地震前兆からの推定=群発経験則が示す 9/3±で発生となる場合は、主地震活動の他に群発的地震活動(熊本地震に似ている)の可能性も有。N型からは噴火に至る可能性も完全否定は困難ですが、今回は特殊な為、断定は困難。

推定領域：
右図太線内領域
斜線域考え易い
推定規模：
M7.8 ± 0.5
他群発的活動
の可能性も有
推定時期：
前兆終息観測
後計算予定

